

# 「知の拠点」整備構想検討まとめ

平成30年1月

「知の拠点」整備構想検討委員会

# 目 次

第 1	「知の拠点」整備構想の検討にあたって	…2
第 2	福知山公立大学、京都工芸繊維大学の概要	…3
1	福知山公立大学	
2	京都工芸繊維大学	
3	立地	
4	主な施設の概要	
第 3	福知山公立大学、京都工芸繊維大学の学部・学科体制等の方向性	…8
1	福知山公立大学	
2	京都工芸繊維大学	
第 4	福知山公立大学、京都工芸繊維大学の地域連携・産官学金連携・文理 連携の方向性	…10
第 5	キャンパス整備基本方針等	…12
1	基本方針	
2	施設機能整備の方向	
3	キャンパス整備の視点	
第 6	福知山公立大学、京都工芸繊維大学の施設・設備及び教育・研究 環境等の充実に向けての解決すべき課題	…12
第 7	キャンパス整備	…14
1	必要とする施設機能	
2	施設整備等の概要	
3	年次計画（案）	
4	整備手法	
5	財源確保の取組み	
《参考》		
	「知の拠点」整備構想検討委員会における検討経過	…20

## 第1 「知の拠点」整備構想の検討にあたって

福知山市は、福知山市市制施行80年の歩みの中で、土地区画整理事業、長田野工業団地造成事業、福知山駅の高架化事業など様々な大型プロジェクトを完成させることにより、北近畿地域の中核都市としての基盤をつくり、市民生活の向上を図ってきたところである。

日本社会は、成長時代を経て成熟時代に突入し、かつてない大きな変化と複雑さを見せている。大きくかつ急激に進む人口減少や大都市集中、超高齢社会、さらにはICT技術・産業の飛躍的な発展を基礎にもたらされる国際化・情報化の進展など、激変する社会経済情勢に対して、福知山市においても、柔軟かつ的確な対応をとることが求められている。

こうした状況を踏まえ、現在、国をあげて様々な地方創生施策が打ち出されている。福知山市は、この機を千載一遇のチャンスと捉え、新たな発想のもと、既存システムを変革し、「地方創生」に向けた積極的な施策を展開しなければならない。

まちづくり、地域活性化の鍵を握るのは「人」である。これからの福知山市、北近畿地域の発展のためには、地域が求める人材を育成することが不可欠であり、地域とのつながりを深めることで、この地域に若者を定着させなければならない。

福知山市は、文系の福知山公立大学、理系の国立大学である京都工芸繊維大学福知山キャンパス（以下「京都工芸繊維大学」という。）が同一キャンパス内に併設するという大きな特色を有しており、両大学が互いの強みを活かし地域連携・文理連携を推進することにより、地域への若者定着や地域が求める人材育成、産業イノベーションの創出、さらには豊かな文化、生涯学習機会の提供を通じて、福知山市を含む北近畿地域全体の活性化が期待される。

国における地方大学の振興による地方を担う多様な人材の育成や産官学連携による地域の中核的な産業振興の促進に係る議論、福知山公立大学開学後の状況変化等を踏まえ、『教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想』（以下、『「学びの拠点」基本構想』という。）（平成27年3月策定）において多様な者が学ぶ「学びの拠点」として位置づけていた両大学を、多様な者が「知」を磨き、地域活力の創出、地方創生への展開を図る「知の拠点」に発展させるため、両大学の教育環境等を充実するための具体的な実施方針である『「知の拠点」整備構想』を策定する必要がある。

これらのことを踏まえ、本委員会は、平成29年9月より4回にわたって検討を行ったところである。今後は、『「学びの拠点」基本構想』に掲げる基本理念<sup>\*</sup>を踏まえつつ、その具体的な実施方針として福知山市において策定する『「知の拠点」整備構想』のもと、福知山公立大学及び京都工芸繊維大学を中核とする“教育のまち福知山”づくりを推進いただきたい。

### ※教育のまち福知山「学びの拠点」基本構想《基本理念》

- 地域を愛し、地域のために働きたいと思える、地域の将来を担う人材を育成する拠点とする。
- 地域産業の振興と雇用創出による賑わいと地域活力にあふれた若者が定住する魅力あるまちを生み出す拠点とする。
- 市民一人ひとりの自己実現を支援し、生涯にわたり学びを享受できる拠点とする。

## 第2 福知山公立大学、京都工芸繊維大学の概要

### 1 福知山公立大学

#### (1) 法人名

公立大学法人福知山公立大学

#### (2) 所在地

京都府福知山市字堀3370番地（西小谷ヶ丘）

#### (3) 基本理念

市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学

#### (4) 目指すべき大学像

- ① 地域社会を支え、地域社会に支えられる大学
- ② 持続可能な社会の創出に貢献する知の拠点大学
- ③ 地域と世界をつなぐ、グローカリズム研究実践の拠点大学

#### (5) 育成する人材像

地域に根ざし、世界を視野に活躍するグローカリスト (Glocalist) ※

※グローカリスト (Glocalist)

Global と Local をあわせた“Glocal”に、人を意味する“ist”を加えた造語。

#### (6) 学部学科

学部	学科	入学定員
地域経営学部	地域経営学科	95人
	医療福祉経営学科	25人

### 2 京都工芸繊維大学

#### (1) 法人名

国立大学法人京都工芸繊維大学

#### (2) 所在地

京都府福知山市字堀小字草池3385番地（西小谷ヶ丘）

#### (3) 育成する人材像

地域貢献意欲を有した国際的に活躍できる理工科系高度専門技術者（地域 Tech Leader）

#### (4) 学部等（平成30年度から）

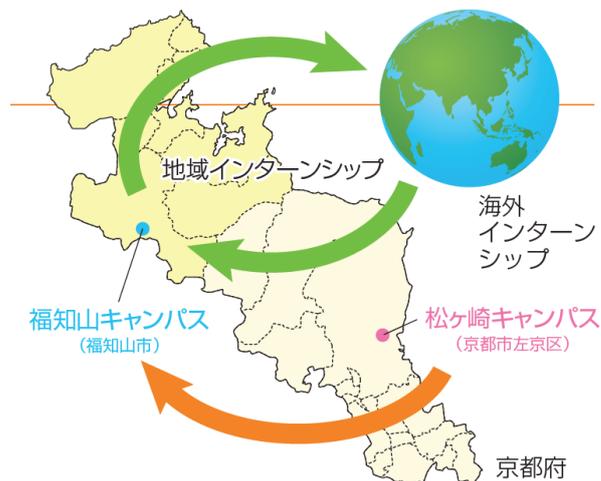
学部	学域	関連する課程	入学定員
工芸科学部	応用生物学域	応用生物学課程	2人
	物質・材料科学域	応用化学課程	10人
地域創生 Tech Program	設計工学域	電子システム工学課程	10人
		情報工学課程 機械工学課程	
	デザイン科学域	デザイン・建築学課程	8人

### (5) 地域創生 Tech Program

グローバルな視野をもって工学・科学技術により地域の課題を解決できる国際高度専門技術者を育成するための学部課程の共通プログラムとして、平成28年4月に開設された。

本プログラムは、各自が工芸科学部に設置された教育プログラムによって教養や専門基礎を身に付けたうえで、京都府北部や北近畿地域をフィールドとして、地域課題をテーマとした学習やインターンシップによる多様な実践的体験を積み重ねることによって地域を創生する人材を育成するプログラムである。

本プログラムの学生は、6つの課程のいずれかに所属し、1年次から3年次前期まで主に京都市内の松ヶ崎キャンパスで学習を行った後、3年次後期から4年次まで福知山キャンパスで学習を行う。松ヶ崎キャンパスでは同じ課程に所属する他の学生とともに教育プログラムを履修し、専門基礎力を身に付け、福知山キャンパスでは地域課題解決型学習（PBL）や地元企業・海外でのインターンシップを中心に、実践的・機動的な学習に取り組む。

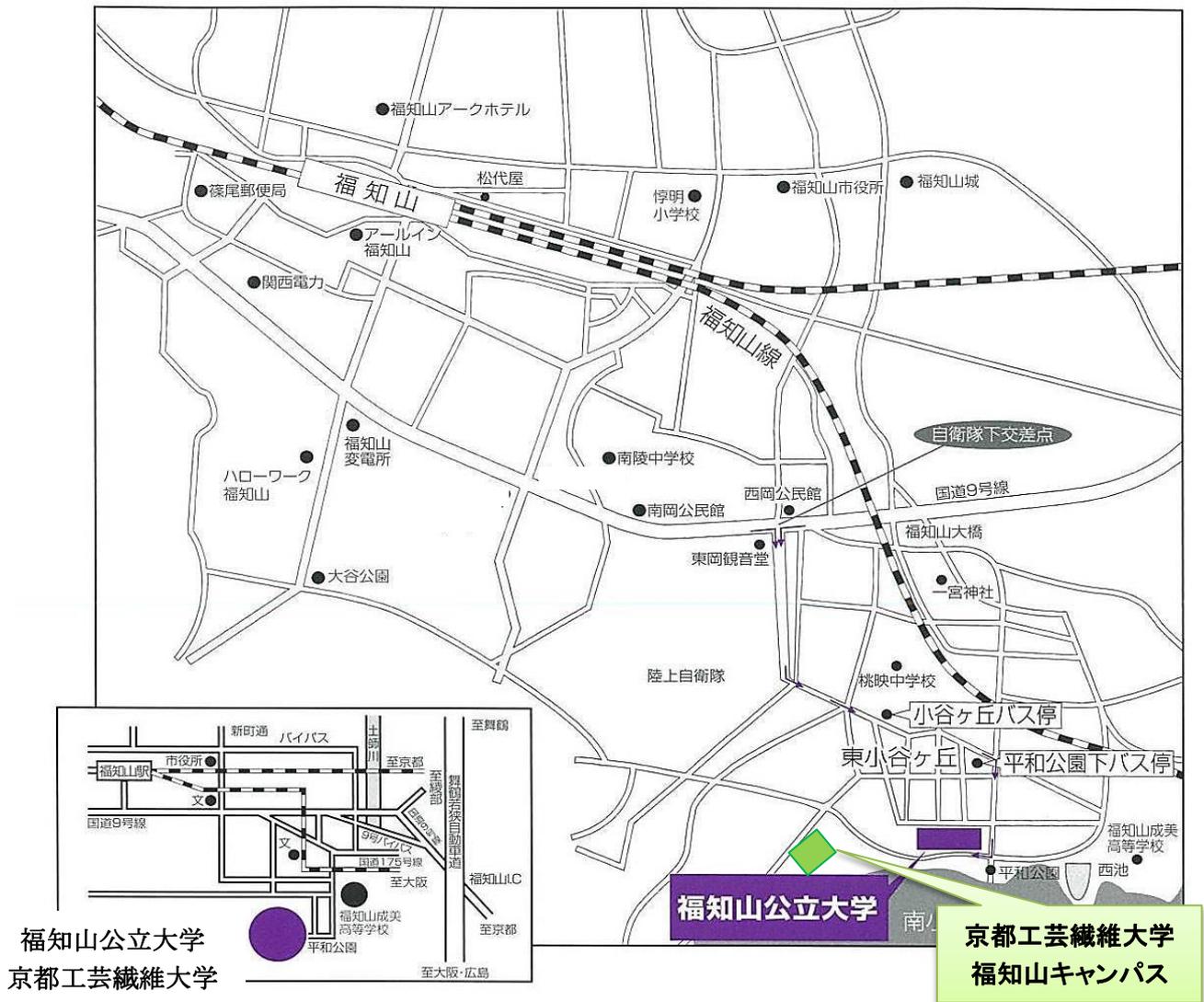


### 3 立地

福知山公立大学と京都工芸繊維大学は、北近畿地域唯一の4年制国公立大学として、福知山市西小谷ヶ丘地区に立地し、キャンパスを隣接して構えている。

両大学は、福知山市の中央部に位置し、福知山城や福知山を代表する一級河川である由良川、丹後天橋立大江山国定公園の大江山をはじめとする緑豊かな山々などを望むことができる、自然に恵まれた丘陵地にある。市内を東西に貫く国道9号の南端に位置し、京阪神と北陸地方を結ぶ近畿自動車道敦賀線（舞鶴若狭自動車道）のインターチェンジから国道9号に沿って約15分の距離にある。

また、福知山市は、京阪神と山陰地方を結ぶ交通の要衝として栄えてきた歴史を有しており、JR山陰本線、JR福知山線、京都丹後鉄道宮福線が通るなど、鉄道アクセスも整備されている。福知山駅から両大学へのアクセスは、①京都交通バス堀循環線にて「平和公園下」又は「小谷ヶ丘（公立大学前）」（約10分）下車後、徒歩約5分、②タクシーにて約5分、③徒歩にて約25分となっている。



#### 4 主な施設の概要

福知山公立大学の施設は、学校法人成美学園から成美大学（旧京都創成大学）及び成美大学短期大学部（旧京都短期大学）の施設の一部を引き継いだものである。現在、1号館は法人事務局、2号館の一部は学友会室、4号館は講義棟、教員研究室、図書館（メディア・センター）、福祉棟は北近畿地域連携センター（1階）、一般社団法人介護・福祉人材養成センター（2階）として活用している。

また、京都工芸繊維大学の施設は、旧福知山女子高等学校の校舎を活用したものである。現在、100号館を改修工事中であり、平成30年3月竣工予定である。

#### 《福知山公立大学が所有する施設等》

No.	土地
1	グラウンド・テニスコート

No.	建物	延床面積	構造	建築年月日
1	1号館	2,362.65 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	昭和57年8月24日

2	2号館	1,109.24 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根3階建	昭和42年8月10日
3	4号館	6,471.70 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造コン クリート屋根地下1階付 5階建	平成12年1月31日
4	厚生棟	480.00 m <sup>2</sup>	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺 2階建	昭和52年1月10日
5	警備員室	162.06 m <sup>2</sup>	木造瓦葺平家建	年月日不詳
6	福祉棟	1,123.47 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造コン クリート屋根地下1階付 2階建	平成8年12月26日
7	食堂	634.99 m <sup>2</sup>	鉄骨造瓦葺平家建	平成5年11月15日
8	食堂機械室	11.20 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造 亜 鉛メッキ鋼板葺平家建	年月日不詳
合計		12,355.31 m <sup>2</sup>		

《京都工芸繊維大学が所有する施設等》

No.	土地
1	駐車場

No.	建物	延床面積	構造	建築年月日
1	100号館 (本館)	1,980m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造 3階建	昭和59年3月28日
2	特別教室 (遠隔講義室・化 学実験室)	492m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造 2階建	平成元年
3	図書館 (複合材料実験 棟)	126m <sup>2</sup>	鉄骨造平家建	昭和45年10月30日
4	200号館	521m <sup>2</sup>	木造平家建	年月日不詳
5	渡り廊下	36m <sup>2</sup>	鉄骨増平家建	昭和59年3月28日
合計		3,155 m <sup>2</sup>		

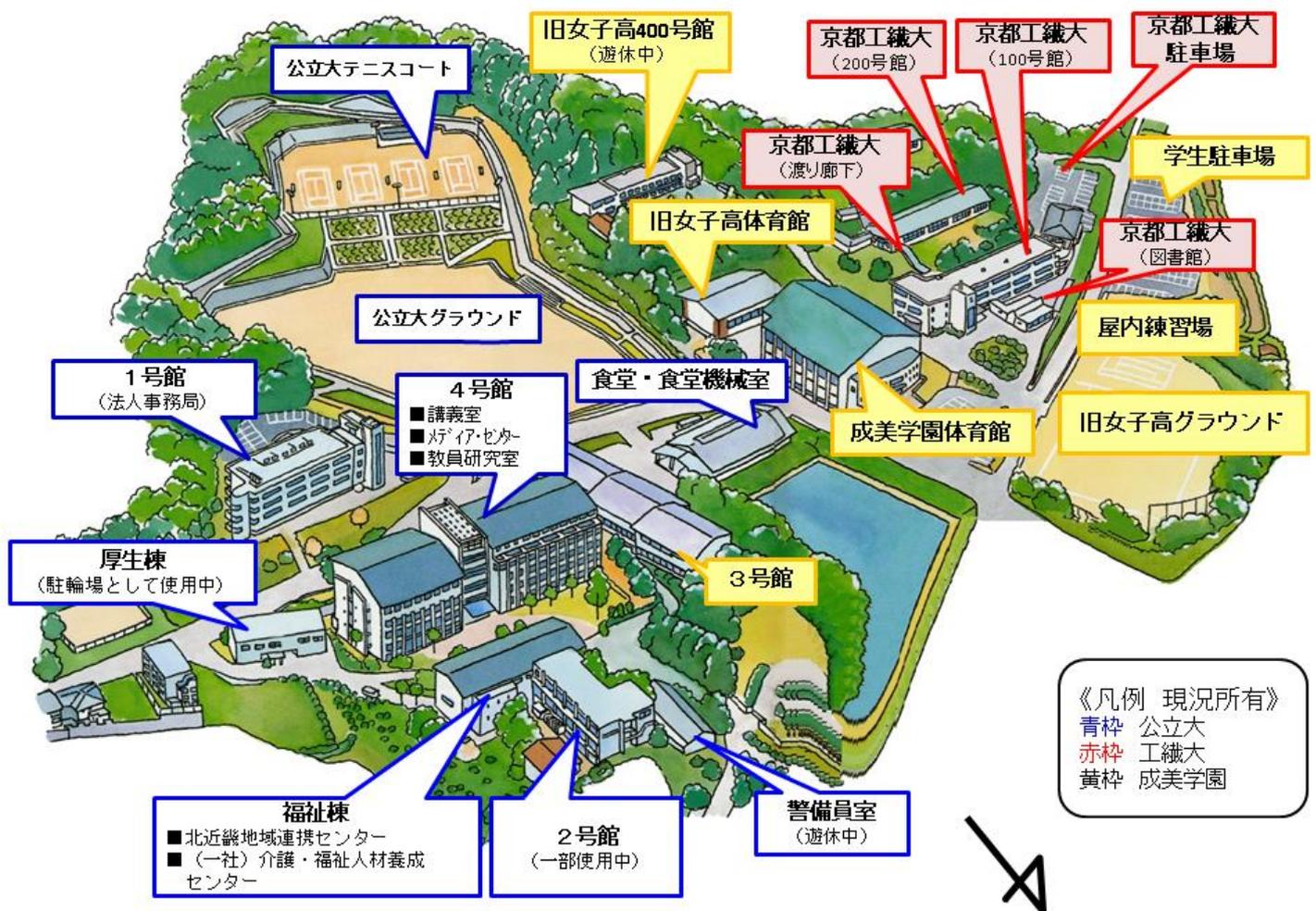
この他、キャンパス内には、学校法人成美学園が所有する土地・施設があり、学生の教育環境の継続を保障し、かつ学校生活の充実・向上を図るため、福知山公立大学と学校法人成美学園の協定により、互いの施設を相互利用している状況にある。

《学校法人成美学園が所有する施設等》

No.	土地
1	学生駐車場
2	旧女子高グラウンド

No.	建物	延床面積	構造	建築年月日
1	3号館	1,756.08 m <sup>2</sup>	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺 2階建	平成3年1月14日
2	成美学園 体育館	2,704.22 m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋コンクリート造 鋼板葺3階建	平成4年4月10日 (平成13年8月30日増築)
3	旧女子高 体育館	567 m <sup>2</sup>	鋼管造スレート葺平家建	昭和39年5月25日
4	旧女子高 400号館	1,000.80 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート造陸屋 根3階建	昭和34年9月21日

《両大学キャンパスマップ》



### 第3 福知山公立大学、京都工芸繊維大学の学部・学科体制等の方向性

#### 1 福知山公立大学

##### (1) 学部・学科体制

本学の特色である「地域協働型実践教育研究」をより一層推進し、地域に根ざし、世界を視野に活躍できる人材（グローカリスト）を育成するため、既存学部である地域経営学部の充実を図るとともに、地元高校生の進路選択肢の拡大、そして北近畿地域における地域連携・産官学金連携の促進を目的として、平成32年度を目処に新学部として理工系学部である「情報系学部」を設置し、2学部体制とすることが望ましい。

また、公立大学法人福知山公立大学中期目標に基づき、同じく平成32年度を目処に、地域社会のニーズや社会情勢等を踏まえ、学部学科編成の最適化及び入学定員200人の実現を図る必要がある。

《現在の学部・学科体制》

学部名	学科名	入学定員
地域経営学部	地域経営学科	95人
	医療福祉経営学科	25人
		120人



《平成32年度の学部・学科体制（案）》

学部名	学科名	入学定員
地域経営学部	地域経営学科	100人
情報系学部	情報系学科	100人
		200人

##### (2) 地域経営学部の充実

公立大学法人福知山公立大学中期目標に定める「地域に根ざし、世界を視野に活躍するグローカリスト」の育成、そして福知山公立大学の特色である「地域協働型教育研究」の展開による「ゆるぎない信念、豊かな包容力、的確な課題解決力を育てるアクティブな教養教育」の実現のためには、「地域経営学部」は欠かすことができない学部であり、教育体制の強化が必要である。

したがって、語学教育、教養教育（文化、法律）の充実、情報教育の充実、教員の研究・研修制度の充実、他大学との連携強化等により、教育体制の強化が求められる。

##### (3) 情報系学部の設置

第4次産業革命や超スマート社会に対応できる人材育成は国としての喫緊の課題であり、とりわけ地方においては労働力人口の減少を控え、「情報（IoT（Internet of Things）、AI（人工知能）等）」を活用した生産性向上が不可欠となっている。情報技術をスマートに活用することによって、将来にわたって人々の暮らしを豊かにし、社会の安寧を実現することが可能となる。

情報は、医療保健や商工・農林業振興、防災など様々な分野への汎用性を備えて

おり、北近畿地域の様々な企業等との連携により、地元企業の発展に寄与する可能性が高く、情報技術を積極的、多角的に活用することによって、福知山市を中心とした北近畿地域が、これからの地域社会モデルとして実現されることが期待される。また、理工系大学である京都工芸繊維大学との連携により、ハード・ソフト両面において具体的な産業イノベーション、社会実装が見込まれ、高い相乗効果が期待される。

したがって、「情報系学部」を新たに設置し、情報学の基本的な知識及び実践的な情報処理技術を備え、情報社会の課題を自ら発見し解決する能力を持つ人材を育成することが求められる。

また、それらに加え、将来的に情報系に関連する教員免許が取得できるよう検討いただきたい。

#### (ア) 「情報系学部」を設置する背景

##### ① 国の動向

内閣府による未来投資会議の議論においては、「大学等における未来の産業構造・社会変革に対応した人材育成の推進、産学の連携による実践的な教育の推進などによる大学等と産業界との連携強化が挙げられており、IT人材は第4次産業革命時代になくはない存在となる。」、また、文部科学省『大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会「大学における工学系 教育の在り方について（中間まとめ）」』（平成29年6月27日）において、「第4次産業革命や超スマート社会、あるいはその先の時代において要請される人材育成のための工学系教育の革新を行い、新たな産業を支える基盤技術の創出を行うことができる人材を育成することが喫緊の課題といえる。」と提唱されている。

##### ② 北近畿地域の動向

北近畿地域には、長田野工業団地、綾部工業団地をはじめとして様々な理工系企業が集積しているが、これからの情報化社会、人口減少社会の中で業務を効率化し、さらなる企業発展を遂げるためには、「情報（IoT、AI）」は不可欠の分野となる。

また、平成32年の新学習指導要領の施行に伴い、初等中等教育においてもプログラミング教育等を含む情報活用能力の育成が求められる中、これからは高校だけではなく、小学校、中学校との連携も強化することが求められる。

「情報」を学べる学部があれば、こうした北近畿地域の様々な企業、教育機関との連携が可能となり、学校と産業界との連携強化等による人材育成の抜本強化にもつながるため、ニーズが高いと言える。

##### ③ 福知山公立大学の現状

福知山公立大学は、北近畿地域唯一の4年制公立大学として、北近畿地域の高校生にとっての進学機会の充実に資する役割を担うことを設置目的の一つとしているが、現在の福知山公立大学は、地域経営学部のみで文系単科大学であることから、進路の選択肢が限られている状況にある。

#### (イ) 開設時期

情報系を取り巻く国等の動向やこれからの18歳人口の急激な減少見通しを踏まえ、他大学において徐々に情報系学部の新設が進んでいる状況にある。

「情報」はスピードが重要であり、他大学よりも少しでも早く新学部開設を打ち出し、教員確保、学生確保につなげるため、平成32年度開設が望ましい。

## 2 京都工芸繊維大学

京都工芸繊維大学には、現在、工芸科学部に情報工学課程（1学年定員61名）、大学院工芸科学研究科博士前期課程情報工学専攻（1学年定員46名）、博士後期課程設計工学専攻（機械工学と情報工学、1学年定員10名）が設置されており、情報、通信、ネットワーク、システム制御などの教育研究を行っている。

京都工芸繊維大学は、もともと実学としての工学を目指しているが、今後はさらに産業、社会イノベーションを実現するために、大学全体として専門分野横断型の産学連携研究開発に力を注ぐ方向性をより明確にする改革に着手されている。しかしながら、具体的なシステム等の構築対象となる社会課題情報を深掘りする教育研究はカバーできていない。最近、国内外でその活動が注目されている **KYOTO Design Lab** がその一端を担いつつあるが、具体的な実装に至らせるまでの各種社会情報の収集、分析、処理、モデリングの方向性提案までを体系的に行えるほどの体制を整えるには、教員数、学生数ともに不足しており、福知山公立大学との連携への期待度は極めて高いと言える。

## 第4 福知山公立大学、京都工芸繊維大学の地域連携・産官学金連携・文理連携の方向性

「知の拠点」づくりは、福知山公立大学、京都工芸繊維大学による文理連携施策の推進に加え、福知山市長のリーダーシップのもと、福知山公立大学、京都工芸繊維大学を中心に地域社会、企業、自治体、金融機関、その他各種団体との連携による推進体制（コンソーシアム）を構築することにより、地方大学の振興、地域を担う人材の育成、北近畿地域の産業の振興、若者雇用の創出など、様々な地方創生施策を実現する拠点を作ることを目指している。

こうした「知の拠点」推進体制（コンソーシアム）の中核を担う拠点、両大学の共同施設として「地域連携拠点」「産官学金連携拠点」「文理連携拠点」の3つの機能を有する拠点の設置を検討いただきたい。

また、地域に対する誇りと愛着を醸成するための施策を展開し、両大学が「地域で学び、地域で働く」という人材循環システムの拠点となるよう取り組んでいただきたい。

### （1）地域連携・産官学金連携拠点

北近畿地域連携センター、北近畿地域連携会議、まちかどキャンパスの機能を十分に活かすとともに、さらに「地域連携・産官学金連携拠点」として、北近畿地域の企業、商工団体、教育機関、自治体、各種団体等との連携を推進し、北近畿地域にとってのシンクタンクの役割、そして生涯学習拠点としての役割を担えるよう取り組んでいただきたい。

《各拠点の名称と役割》

名称	役割
北近畿地域連携センター	地域活動の進め方や課題の解決方法に関する相談、教員等の紹介、情報の提供、市民活動の場としての利用等、地域連携の総合窓口としての機能を担う拠点。
北近畿地域連携会議	福知山公立大学、京都工芸繊維大学、兵庫県立大学と北近畿地域の民間企業・各種団体等により組織される、様々な課題に対する提言や提案を行うシンクタンクとしての機能を担うことを目的とする組織。
まちかどキャンパス (平成30年4月開講予定)	<p>福知山市中心市街地の空き店舗を改修し、大学講義をはじめ、様々な地域連携事業を行う機能を設けることにより、地域住民に身近に感じてもらえる「見える」大学づくりを行うことを目的とする福知山公立大学と京都工芸繊維大学の連携拠点。</p> <p>※将来的には、教員、学生が中心市街地において活動・居住し、街並みそのものをキャンパスに発展させること（まちなみキャンパス）も検討いただきたい。</p>

(2) 文理連携拠点

両大学や産業界・教育界が連携した学習活動を実施できる新しいタイプのラーニング・コモンズ※機能を有する情報通信環境が整った交流・研究スペースを設置するとともに、将来的には「情報系」を核とした両大学連携による大学院といった共同研究拠点の設置を検討いただきたい。

※ラーニング・コモンズ

学生、地域企業、住民等を対象とした、情報通信環境が整い、自習やグループ学習用の設備等が用意された産官学金連携機能を有する開放的な学習空間。

(3) 人材循環システム拠点

① 小中高大連携等の強化

福知山市をはじめ北近畿地域の小学校、中学校、高等学校との連携を強化し、地域を愛し、地域のために働きたいと思える、地域の将来を担う人材育成を図っていただきたい。

また、北近畿地域の企業、金融機関、教育機関、各種団体等の職員のスキルアップやリカレント教育の場となるよう、生涯学習施策を積極的に展開いただきたい。

② インターンシップ等連携体制の構築

北近畿地域の行政や企業、商工団体、金融機関、各種団体等との連携体制を構築し、インターンシップ等の充実強化を図ることにより、地元企業等への就職を促進し、学生の安定した就職先確保に向けて取り組んでいただきたい。

### ③ 奨学金制度等の充実

現在、福知山市で実施している「福知山公立大学就学生支援事業」に加え、北近畿地域の各市町に対して、両大学に進学する学生を対象とした奨学金制度等を創設するとともに両大学卒業後の北近畿地域への定住促進、雇用促進につながる施策について協力を呼びかけることを検討いただきたい。

## 第5 キャンパス整備基本方針等

### 1 基本方針

福知山公立大学、京都工芸繊維大学の高度な教育・研究活動を支えるとともに、地域連携・文理連携の推進並びに地方創生を牽引する産官学金連携を積極的に実施することを可能とする「知の拠点」にふさわしい機能的キャンパスを整備すること。

### 2 施設機能整備の方向

- (1) 両大学・地域との「連携」のための施設・設備等の整備
- (2) 両大学の「教育研究」のための施設・設備等の整備
- (3) 両大学の福利厚生のための施設・設備等の整備
- (4) 両大学の居住環境改善のための学生宿舎等の整備
- (5) 地域連携、産官学金連携の充実に必要となる両大学へのアクセス環境の整備

### 3 キャンパス整備の視点

- (1) 子どもから高齢者までだれもが安心・安全に学ぶことができるよう、バリアフリー対策、防災対策の視点を踏まえること。
- (2) ランニングコストの低減に向けて、省エネルギー対策の視点を踏まえること。

## 第6 福知山公立大学、京都工芸繊維大学の施設・設備及び教育・研究環境等の充実に向けての解決すべき課題

### (1) 両大学・地域との「連携」のための施設・設備等

両大学が文理連携を推進するにあたっての拠点となる共同利用施設がない状況にある。

また、福知山公立大学において、地域連携・産官学金連携のための拠点として「北近畿地域連携センター」を開設しているが、現時点では人員等の課題から北近畿地域の様々なニーズに対応しきれていない。

### (2) 両大学の「教育研究」のための施設・設備等

#### ① 教育・研究環境等

福知山公立大学の施設・設備は老朽化が進んでいるとともに、大学として必要最小限の機能しか備えておらず、授業等を行うことができる施設は4号館のみである。そのため、将来的に新学部を設置することになった場合、4号館だけでは講義室、演習室、教員研究室が不足する見込みである。

#### ② 耐震性等

福知山公立大学には昭和56年5月以前に建てられた旧耐震基準設計の施設もあり、建設当時から相当の年月が経過していることから、耐震性が低いなどの構

造上の問題を抱えている状況にある。

また、「京都府福祉のまちづくり条例（平成24年改正版）」や「福知山市ユニバーサルデザイン推進指針（平成28年3月）」に定めるバリアフリーに関する整備基準に合致するよう配慮する必要がある。

### （3）両大学の福利厚生のための施設・設備等

#### ① 食堂

両大学周辺にはコンビニエンスストア、飲食店がほとんどなく、学生が食事できる場所はほぼ食堂に限定されている状況にある。今後の学生等の増加に伴い、混雑が予想されるため、設備の充実や、さらなるサービスの向上が求められる状況にある。

#### ② 体育館、グラウンド

福知山公立大学には体育館がないため、授業等の際は成美学園体育館を借用しなければならない、クラブ・サークル活動時においては、場合によっては遠方の体育館（市民体育館等）まで行かなければならない状況にある。

また、平成30年後期以降、京都工芸繊維大学においてクラブ・サークルができた場合の活動場所も検討しなければならない。

なお、福知山公立大学グラウンドは、学校法人成美学園との協定により福知山成美高校も利用できる状況にある。

#### ③ 学生クラブ・サークル室

福知山公立大学には、平成29年11月1日時点で25の学生クラブ・サークルがあるものの、クラブ・サークル室がないため、学生の充実したクラブ・サークル活動に支障を来している状況にある。

このように、学生の憩いの場である食堂、そして、充実した大学生活を送るうえで大きな要素になるであろうクラブ・サークル活動を行える環境を学生に提供できていない現在の状況は、学生が大学生活を送るにあたっての最低限のニーズを満たしているとは言えない。

現在の状況が続けば、福知山公立大学に対する満足度の低下を引き起こしかねず、ひいては今後の学生募集活動にも大きな影響を与えかねない。

### （4）両大学の居住環境改善のための学生宿舎等

学生・教職員宿舎があることは、大学にとって大きな魅力となる。学生にとっては、進路選択の要素の一つになり、また、優秀な教職員を招くにあたっては、福知山公立大学は、都市部の大学に比べて地理的条件において不利であるため、宿舎の有無は大きな要素となる。

しかし、福知山公立大学には学生・教職員の専用宿舎がない。そのため、自宅通学を除くほとんどの学生は大学周辺の民間住宅に入居している。福知山市の民間住宅の賃料は近隣市町より高い水準にあるとの声が多く、特に学生にとって経済的負担が大きい。

福知山公立大学の学生数増加に伴い、大学周辺の民間住宅の需要が高まる一方、平成30年後期からは、京都工芸繊維大学の学生も福知山市で学ぶため、学生の住宅環境の確保は喫緊の課題となる。

(5) 地域連携、産官学金連携の充実に必要となる両大学へのアクセス環境

福知山公立大学は、地域に開かれた大学として、地域住民、行政機関、産業機関、教育機関など様々な団体との連携や他大学との交流を深めることを目的の一つとしている。

地域に開かれた「知の拠点」づくりを進めていくためには、アクセス環境整備は重要な課題であり、主道路の整備、教職員・学生・来訪者用駐車場の確保、公共交通の充実等に向けて取り組んでいく必要がある。

## 第7 キャンパス整備

### 1 必要とする施設機能

「知の拠点」整備構想の実現のためには、以下の5つの施設機能が必要である。しかしながら、5つ全ての施設機能を同時に整備することは、財源及び時間的問題により難しいため、優先順位を精査のうえ、早期、中期、長期の概ね10年間の年次計画により取り組んでいただきたい。

まずは、①両大学・地域との「連携」のための施設であり、かつ、②両大学の「教育研究」のための施設である1号館と3号館の施設改修を最優先課題として取り組むことが望ましい。

なお、その他の施設機能については、原則として中長期対応とするが、同時並行で調査・検討を進めるとともに状況に応じて前倒すなど、柔軟に対応できるよう努めていただきたい。

#### 《5つの施設機能》

	施設機能	具体的機能
1	両大学・地域との「連携」のための施設・設備等	■地域連携・産官学金連携拠点施設 (例) 北近畿地域連携センター、まちかどキャンパスなど
2	両大学の「教育研究」のための施設・設備等	■講義室、教員研究室等 ■共同研究施設 (例) 相互利用のコンピュータ室 ラーニング・コモンズ、情報系連携大学院
3	両大学の福利厚生のための施設・設備等	■食堂 ■体育館、グラウンド ■学生クラブ・サークル室
4	両大学の居住環境改善のための学生宿舎等	■学生・教職員宿舎 ■地元不動産事業者との連携や市内空き住宅等を活用したシェアハウス、次世代下宿「京都ソリデール」事業等による学生住宅確保スキームの構築。
5	地域連携、産官学金連携の充実に必要となる両大学へのアクセス環境	■メインアクセス道路 ■駐車場・駐輪場 ■利便性の高い公共交通環境(路線バス、鉄道等)

《短期、中期、長期の目安》

短期対応	平成30年度～32年度
中期対応	平成33年度～35年度
長期対応	平成36年度～39年度

2 施設整備等の概要

(1) 両大学・地域との「連携」並びに両大学の「教育研究」のための施設・設備等

①施設整備

1号館を新学部の教員研究室、3号館を新学部棟及び文理連携拠点施設とするにあたり、早期に改修工事を行うとともにバリアフリー化（エレベーター設置等）や空調改修等を行っていただきたい。

2号館は、当面は現行どおり利活用することとするが、耐震基準を満たしていないため、今後の施設利用計画において必要性が生じた場合は、耐震改修工事等を行うことを検討いただきたい。

4号館は、エレベーター及び空調改修の必要性が高まっているため、短期的に改修を行っていただきたい。

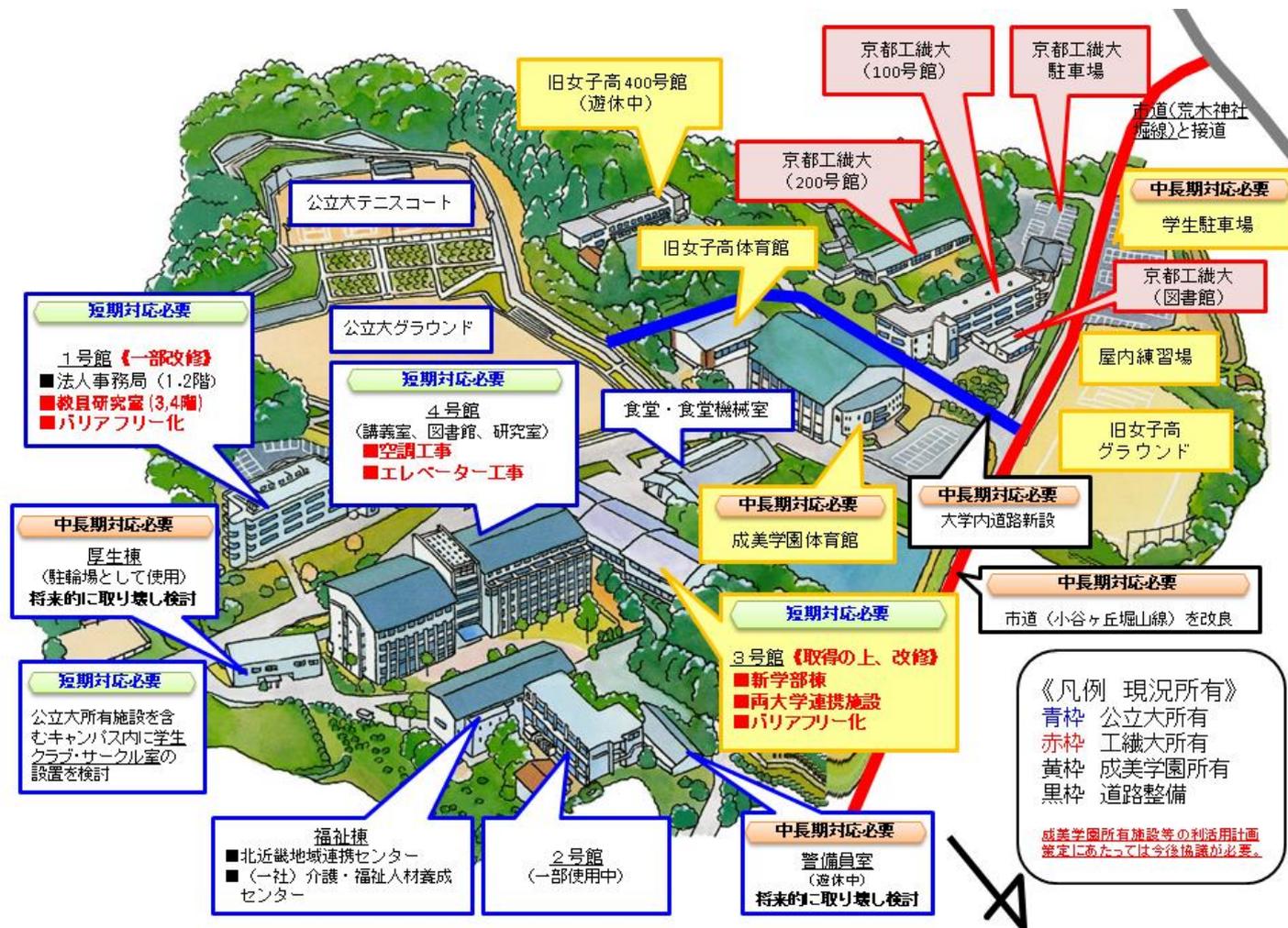
福祉棟は、当面は現行どおり利活用することとするが、今後の介護・福祉人材養成センターの利活用については検討・調整いただきたい。

施設	耐震	現行	利活用計画
1号館	○	【1階】法人事務局 【2階】学長室・副学長室、CUANKA、中教室 【3階】中教室（4室）《遊休中》 【4階】中教室（3室）《遊休中》	【1階】法人事務局 【2階】学長室・副学長室、CUANKA、中教室 【3階】教員研究室（14室）、会議室 【4階】教員研究室（18室） ■バリアフリー化 ■空調改修
2号館	×	【1階】学友会室（1室） 【2階】教室等《遊休中》 【3階】教室等《遊休中》	現行どおり。ただし、必要に応じて耐震改修工事等を中長期的に検討する。
3号館	○	【1階】調理室等 【2階】大教室等	新学部棟・文理連携拠点施設 【1階】講義・演習室、ラーニング・コモンズ 【2階】情報処理室等 ■バリアフリー化 ■空調改修
4号館	○	【1階】講義室、メディアセンター 【2階】PC教室、ネットワーク管理室 【3階】セミナー室 【4階】教員研究室（14室） 【5階】教員研究室（16室）	現行どおり。ただし、短期的にはエレベーター改修、空調改修必要。
福祉棟	○	【地階】調理実習室（遊休中） 【1階】北近畿地域連携センター 【2階】介護・福祉人材養成センター	現行どおり。ただし、今後の介護・福祉人材養成センターの利活用については検討・調整必要。

② ICT環境整備

新学部棟及び文理連携拠点施設として改修する3号館のICT環境を早期に整備  
 いただきたい。

《キャンパス整備図（案）》



(2) 両大学の福利厚生のための施設・設備等

① 施設整備

食堂は、現行どおり利活用することとする。ただし、今後の学生数等の増加に伴い、必要に応じて設備の充実を検討いただきたい。

また、厚生棟及び警備員室は、耐震基準を満たしておらず、他の用途への利活用方法がないため、中長期的に取り壊し、整地のうえ、その跡地の利活用を検討いただきたい。

施設	耐震	現行	利活用計画
食堂	○	食堂	現行どおり。ただし、必要に応じて設備改修工事等を中長期的に検討する。
厚生棟	×	駐輪場	中長期的に取り壊しを検討。
警備員室	×	物置	中長期的に取り壊しを検討。

## ② 食堂の充実

現状は学生・教職員の利用が主であり地域住民の利用度は高くないが、将来的には両大学の学生・教職員だけではなく、地域住民も利用する地域に開かれた大学食堂となるよう、食堂営業受託業者にサービスの充実を求める。

また、中長期的に大学周辺へのコンビニエンスストア等の誘致を検討し、学生の福利厚生環境の充実を図っていただきたい。

## ③ 体育館、グラウンドの整備・充実

体育館は、当面、学校法人成美学園体育館を借用するが、中長期的には当該体育館の取得も視野に入れて検討を進めることが望ましい。

また、学校法人成美学園との協定のあり方を再検討し、中長期的には福知山公立大学グラウンドを両大学共用グラウンドとして活用できるよう、三者で協議を進めていただきたい。

## ④ 学生クラブ・サークル室の設置

福知山公立大学所有施設を含むキャンパス内に学生クラブ・サークル室を設置できるよう、早期に検討を進めていただきたい。

## (3) 両大学の居住環境改善のための学生宿舎等

P F I※手法等といった民間の資金とノウハウを活用する手法により、市営住宅跡地をはじめとする福知山市保有地における学生宿舎の整備を検討いただきたい。また、学生の経済負担を少しでも軽減できるような家賃設定を検討いただきたい。

なお、教職員を招聘するにあたっては、教職員宿舎も重要で検討する必要はあるが、学生確保の観点から、まずは学生宿舎の設置を優先することが望ましい。

また、市内空き住宅等を活用したシェアハウスや『次世代下宿「京都ソリデール」事業』※等の活用、さらには将来的にはまちなみキャンパスを検討するなど、学生のための様々な住宅確保施策を展開いただきたい。

### ※P F I (Private Finance Initiative)

公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという手法。

### ※次世代下宿「京都ソリデール」事業

高齢者の自宅の一室を一人暮らしの大学生等の若者に貸し出すことにより、低廉で質の高い住宅環境を確保するとともに若者と高齢者との交流を図ることを目的とする京都府事業。

## (4) 地域連携、産官学金連携の充実に必要となる両大学へのアクセス環境

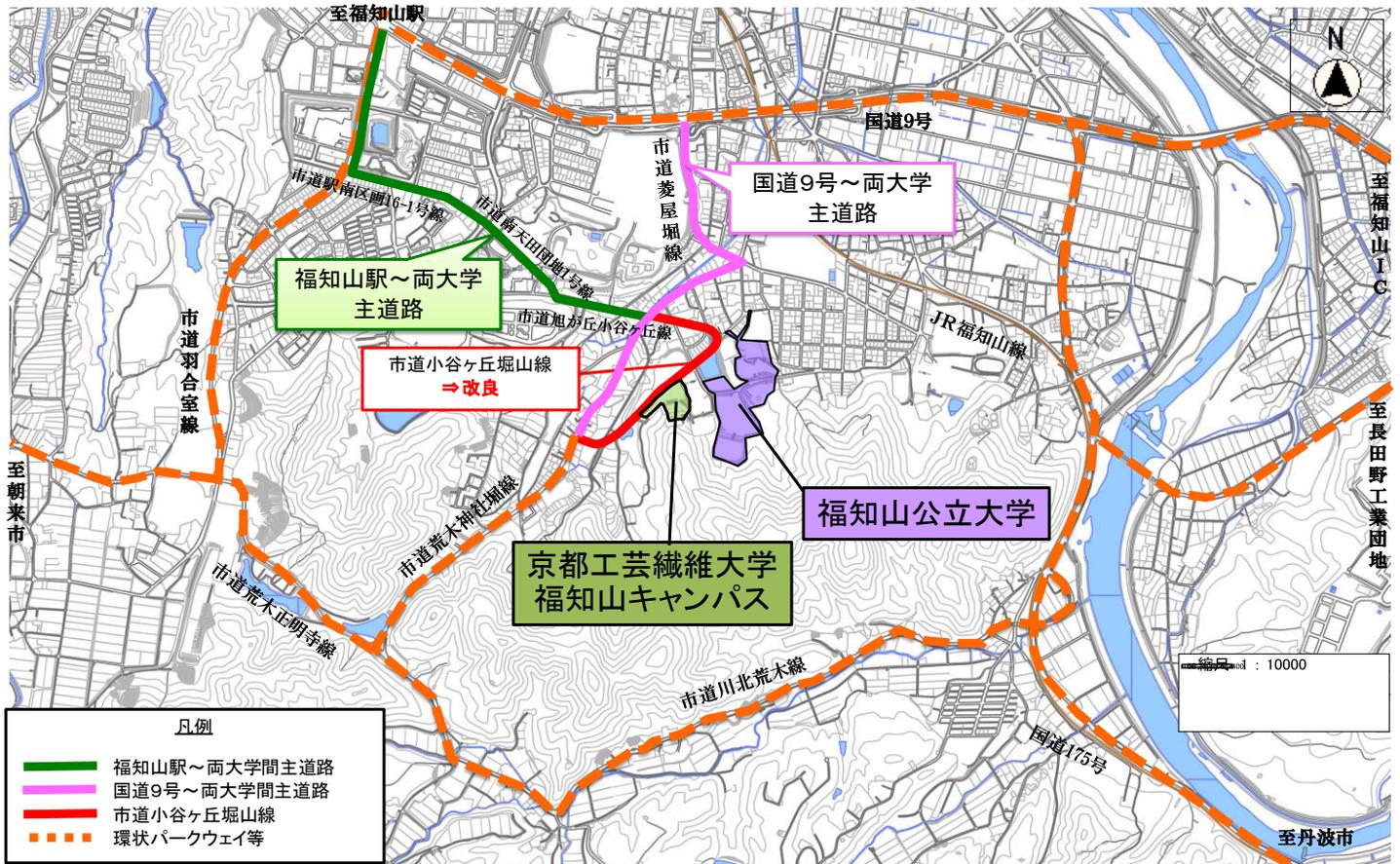
### ① 両大学への主道路整備

市道小谷ヶ丘堀山線を改良し、市道荒木神社堀線と接道させることにより、

市道小谷ヶ丘堀山線を両大学への主道路として位置づけ、アクセス改善に向けて着手できるものから順次実施し、中長期期間内に整備いただきたい。

なお、バス等の大型車両については環状パークウェイからの誘導を図るなど、福知山市の既存道路網を活かし、交通手段に応じたアクセス誘導を行うことも検討いただきたい。

## 《両大学へのアクセス整備網》



### ② 大学内道路の新設

中長期的には京都工芸繊維大学校舎と成美学園体育館の間に大学内道路を新設し、両大学間の移動の円滑化を図れるよう検討することが望ましい。

### ③ 駐車場の確保

中長期的には学生、教職員、来訪者用駐車場の確保に向けて検討することが望ましい。

### ④ 公共交通の利便性向上

公共交通（路線バス、鉄道等）による通学環境の利便性向上に向けて、関係機関と連携しながら取り組んでいただきたい。

### 3 年次計画（案） （1）福知山公立大学

	短期			中期			長期				
	平成30年度 340名	平成31年度 410名	平成32年度 560名	平成33年度 640名	平成34年度 720名	平成35年度 800名	平成36年度 800名	平成37年度 800名	平成38年度 800名	平成39年度 800名	
収容定員 中期計画	第1期			第2期							
主な内容	①1号館設計 ②3号館取得 ③3号館設計  (検討事項) ①クラブ・サークル室の設置	①1号館改修工事 ②3号館改修工事 ③3号館ICT環境整備	①4号館 エレベーター・ 空調改修工事	①3号館 ICT環境整備 ②厚生棟・警備員室取り壊し ③体育館確保 ④駐車場確保	(検討事項) ①2号館耐震改修工事等 ②福祉棟空調改修工事等 ③食堂設備改修工事等						
1号館	設計	改修工事	新学部設置								
2号館								必要に応じて耐震改修工事等を検討			
3号館	取得及び設計	改修工事 ICT環境整備			ICT環境整備						
4号館				エレベーター・空調改修工事							
福祉棟					必要に応じて空調改修工事等を検討						
食堂								必要に応じて設備改修工事等を検討			
厚生棟 警備員室					取り壊し						
クラブ室	設置場所を検討し、検討が整い次第、設置工事等を実施										
体育館								体育館確保			
駐車場								駐車場確保			
学生宿舎	宿舎建設を検討し、検討が整い次第、建設工事等を実施										
市道整備	市道小ヶヶ丘堀山線、大学内道路の整備（土木課対応：H29～）										

### （2）京都工芸繊維大学

平成30年度に図書館棟の改修工事、平成32年度に100号館エレベーター設置工事を予定。

#### 4 整備手法

大学施設整備にあたっては、設計段階から民間企業の提案によるプロポーザル方式を採用し、様々な工夫や新しい技術・ノウハウを取り入れることにより、また、学生等宿舎の設置にあたっては、PFI方式といった民間活力を活かした整備手法を取り入れることにより、トータルコストの抑制を図っていただきたい。

#### 5 財源確保の取組み

福知山公立大学は、北近畿地域の持続可能な地域社会の発展と地方創生に寄与することを目的としていることに鑑み、地方創生関連補助金、ふるさと納税、企業版ふるさと納税をはじめとする様々な外部資金の獲得に努めるとともに、国、府に対する財政措置の拡充の要望や北近畿地域の市町に対しても大学運営に対する支援につき理解を求めていくなど、財源の確保に向けた検討を進めていただきたい。

また、福知山公立大学に対しても、教育の質の担保に留意しつつ、徹底した支出抑制と収入確保に努めるよう働きかけていただきたい。

## 《参考》「知の拠点」整備構想検討委員会における検討経過

### 1 設置目的

福知山公立大学と京都工芸繊維大学福知山キャンパスを核とした人材育成、産業振興並びに生涯学習等の拠点化を図るための「知の拠点」整備構想を策定するにあたり、必要な意見を聴取することを目的とする。

### 2 意見聴取事項

- (1) 福知山公立大学と京都工芸繊維大学の連携強化並びに両大学の教育研究の充実に関すること。
- (2) キャンパスの整備計画に関すること。
- (3) 財政シミュレーションに関すること。
- (4) その他必要な事項に関すること。

### 3 委員

職名等	氏名（敬称略）	摘要
一般社団法人公立大学協会副会長 公立大学法人福岡県立大学理事長兼学長	柴田 洋三郎	委員長
ふくし事業協同組合理事長 福知山商工会議所副会頭	奥田 省三	委員長 職務代理
一般社団法人京都府経済同友会北部部会長 宮津商工会議所会頭・㈱三洋商事代表取締役社長	今井 一雄	
株式会社浅田可鍛鑄鉄所取締役社長	浅田 博史	
福知山市自治会長運営委員連絡協議会会長	大西 利明	
中丹地域公立高校校長会理事 京都府立工業高等学校校長	田中 邦明	
京都府中丹広域振興局長	野村 賢治	

#### 4 構想策定本部

職名	氏名（敬称略）	摘要
公立大学法人福知山公立大学理事長兼学長	井口 和起	
国立大学法人京都工芸繊維大学副学長	森迫 清貴	
福知山市副市長	伊東 尚規	
福知山市高等教育施策に関する特別顧問	大槻 秀明	

#### 5 開催スケジュール

	開催日時及び場所	議題・報告事項
第1回	日時：平成29年9月20日（水） 午後2時から4時まで 場所：福知山公立大学4号館 4階会議室	(1) これまでの経緯及び構想策定趣旨について (2) 両大学の文理連携について
第2回	日時：平成29年10月27日（金） 午後2時から4時まで 場所：福知山市役所 5階 全議員協議会室	(1) 両大学の地域連携、文理連携について
第3回	日時：平成29年11月17日（金） 午後2時から3時30分まで 場所：福知山市役所 5階 全議員協議会室	(1) キャンパス整備計画について
第4回	日時：平成29年12月22日（金） 午後2時から 場所：ハピネスふくちやま 3階 会議室1	(1) 「知の拠点」整備構想検討まとめ（案）について (2) 財政シミュレーションについて